

病害虫発生予察情報予報第11号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	2月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除 のてびきの 記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	ハダニ類	多	多	204~205	 ハダニ類
	注意報第8号を参照				
	うどんこ病	並	並	194~196	
	灰色かび病	並	並	197~198	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
	特記事項 1. ハダニ類 多くの圃場で発生がみられ、一部にはハダニ類による葉のカスリ症状や糸の発生も認められる。発生状況を確認し、発生圃場では早急に薬剤防除を実施する。 (病害虫発生予察注意報第8号を参照) 2. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 ミツバチへの影響が小さい薬剤を利用するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す。また、ミツバチが活動する時間帯の散布は控える。				
野 菜	すすかび病	やや多	やや多	231~232	 ナスすすかび病
	灰色かび病	並	やや多	230~231	
	菌核病	やや多	やや多	233	
	アザミウマ類	少	少	242	
	コナジラミ類	並	やや多	240~241	
	ハモグリバエ類	やや少	並	243	
	特記事項 1. すすかび病 降雨が続くと、すすかび病が発生しやすくなる。換気を行うなどして適切な湿度管理に努め、定期的に薬剤散布を行う。				
キュウリ	べと病	多	並	173~174	 キュウリうどんこ病
	うどんこ類	多	多	179~181	
	褐斑病	多	多	177	
	アザミウマ類	やや少	少ない	188~189	
	コナジラミ類	多	多	187~188	
	特記事項 1. べと病、うどんこ病、褐斑病 曇雨天が続く薬剤防除が不十分となった圃場で発生が増加している。換気等による適切な温湿度管理、薬剤防除を組み合わせる。				

トマト	疫病	<u>やや多</u>	<u>やや多</u>	215～216	 トマト疫病
		<u>注意報第7号を参照</u>			
	葉かび病	並	並	221～222	
	灰色かび病	<u>やや多</u>	並	216～217	
	コナジラミ類	並	並	149～151 224～226	
	ハモグリバエ類	並	並	158～159 228	
特記事項 1. 疫病 本病の発生を認めたら、初期防除を徹底するとともに、罹病部位を取り除き圃場外で適切に処分する。 <u>(病害虫発生予察注意報第7号を参照)</u>					
2. すすかび病 一部圃場で発生している。こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理に努めるとともに、初期防除を徹底する。					
3. 黄化葉巻病 (TYLCV) ・黄化えそ病 (TSWV) 等 黄化葉巻病が一部圃場で発生している。これらの発病株は早急に抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるコナジラミ類やアザミウマ類の初期防除を徹底する。					
タマネギ	ボトリチス葉枯症	<u>多</u>	<u>多</u>	279	 ボトリチス葉枯症
	べと病	<u>多</u>	並	277～278	
	白色疫病	<u>やや多</u>	<u>やや多</u>	276～277	
	ネギアザミウマ	<u>やや多</u>	<u>多</u>	285～286	
	特記事項 1. べと病 越年罹病株の抜き取りと定期的な薬剤防除を実施する。				
2. 低温、積雪後に発生する病害 茎葉の傷みからボトリチス葉枯症や腐敗病が発生しやすいので、予防防除を実施する。特に、極早生、早生品種では注意する。 <u>(病害虫対策資料第19号を参照)</u>					
花 き	白さび病	並	少	375～376	 白さび病
	アザミウマ類	並	並	382～383	
	アブラムシ類	並	並	379～380	
	ハダニ類	並	並	380～381	
	ハモグリバエ類	並	並	384～385	
	特記事項 1. 白さび病 降雨が続くと、白さび病が発生しやすい。発病後の防除は難しいため、 <u>薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組合わせて防除する。</u>				
2. クロゲハナアザミウマ 一部の圃場で発生が認められる。本虫が寄生している <u>葉裏に薬液がかかるよう発生初期から丁寧に散布する。</u>					
3. キクえそ病 (TSWV)、茎えそ病 (CSNV) 発病株は早急に抜き取る。また、媒介虫であるミカンキイロアザミウマの発生を抑えるため、 <u>発生初期からの防除を徹底する。</u>					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。

○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「[県防除のてびき](#)」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
3ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

Ⅲ. 2月の気象条件

病害虫の発生に関与する2月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成28年1月25日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における2月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (6.7℃)	50	高い
降水量	20	40 (77.5mm)	40	やや多い

IV. 2月の予報

イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)
調査日: 1月18~25日



1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率: 30.0% (平年9.8%、前年17.7%)

(発生圃場率: 67%)

平年比: 多(+)

前年比: 多(+)

②病害虫防除員による調査(6圃場)

3圃場で発生確認、発生株率は6.0% (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) [平成28年1月28日付け病害虫発生予察注意報第8号](#)を参照

巡回調査圃場の様子

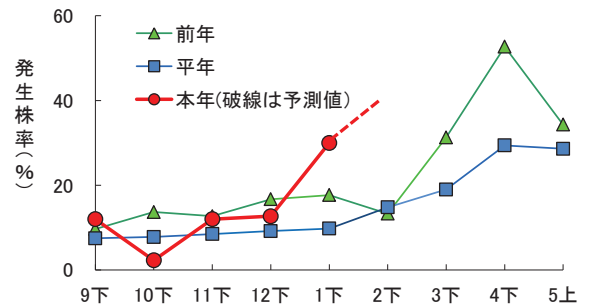


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率: 5.0% (平年7.8%、前年13.3%)

平年比: やや少(一~±)

前年比: 少(一~±)

②病害虫防除員による調査(6圃場)

3圃場で発生確認、発生株率は2.7% (一~±)

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間~1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

(2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

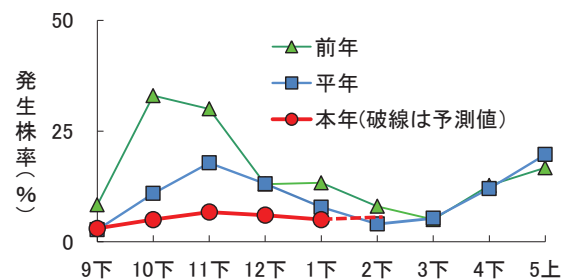


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

- ①巡回調査（図1参照）
発生果率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±）
前年比：並（±）

- ②病害虫防除員による調査（6圃場）
発生果率：0%（±）

- (2)2月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)こまめな換気や循環扇を活用するなどして適切な湿度管理を行う。
- (2)曇雨天が続くと発生しやすい。発病果は伝染源となるため、見つけ次第除去し、圃場外で適切に処分する。
- (3)発生初期に薬剤防除を行う。

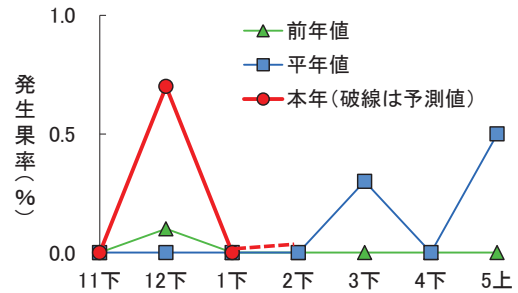


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

ナス（促成）

巡回調査（8圃場）
1月18～22日



巡回調査圃場の様子

1. すすかび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

- ①巡回調査（図1参照）
発生株率：25.6%（平年14.0%、前年7.5%）
平年比：やや多（±～＋）
前年比：多（＋）

- ②病害虫防除員による調査（4圃場）
発生株率：0%（－～±）

- (2)2月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～＋）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)中・下位葉の葉裏から発病しやすいので、注意して観察し、早期防除（ダコニール1000とベルコートフロアブルを交互に一週間間隔で散布し、約一ヶ月散布）に努める。
- (2)耐性菌が発生しやすいQoI剤、SDHI剤及びDMI剤は、薬剤感受性の低下を防ぐため、使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。
- (3)その他については特記事項を参照。

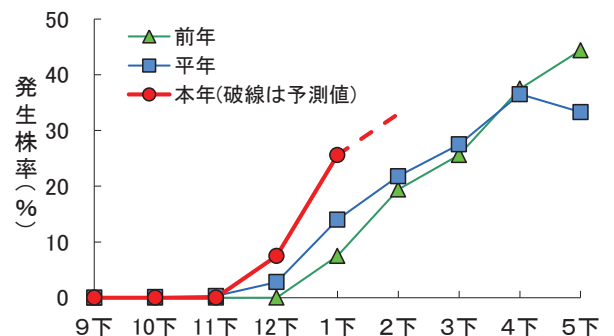


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

- ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.3%、前年0.6%）
平年比：やや少（－～±）

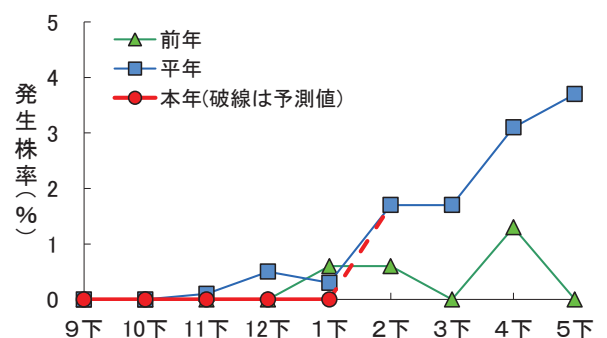


図1 ナス灰色かび病の発生推移

前年比：少く－

②病害虫防除員による調査（4圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は2.5%（＋）

(2)2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～＋）

3）防除上注意すべき事項

(1)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

(2)発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

3. 菌核病

1）予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（4圃場）

発生株率：0%（±）

(2)2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～＋）

3）防除上注意すべき事項

(1)発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

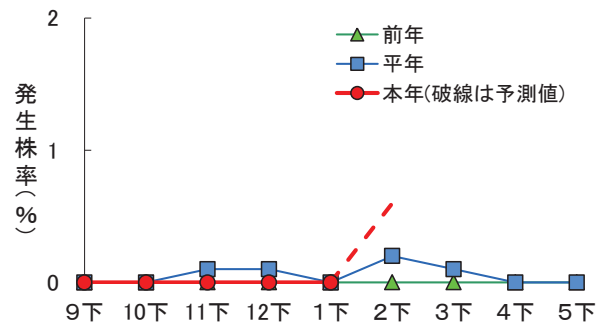


図1 ナス菌核病の発生推移

4. アザミウマ類

1）予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年15.3%、前年13.1%）

平年比：少く－

前年比：少く－

②病害虫防除員による調査（4圃場）

寄生株率：0%（－）

3）防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

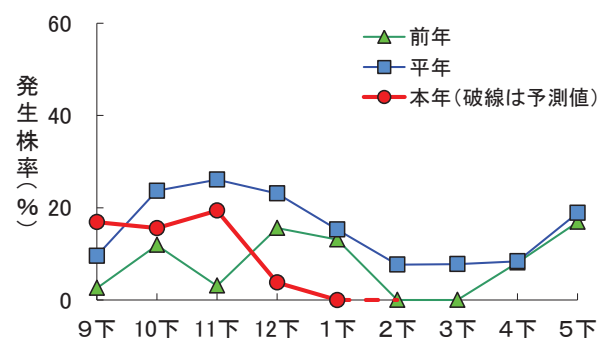


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：10.6%（平年16.4%、前年2.5%）

平年比：並（±）

前年比：やや多（±～+）

② 病害虫防除員による調査（4圃場）

寄生株率：0%（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

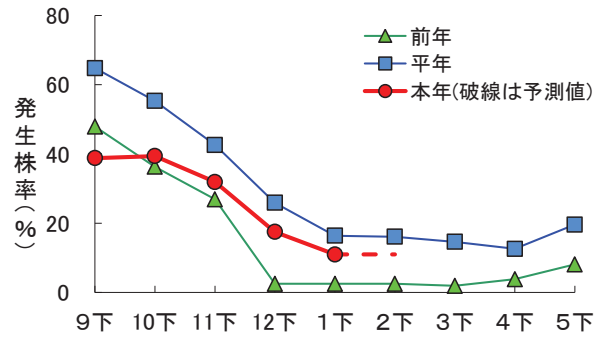


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キュウリ（半促成）

巡回調査（6圃場）
調査日：1月18日～26日

1. べと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：5.0%（平年1.7%、前年3.3%）

平年比：多（+）

前年比：やや多（±～+）

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

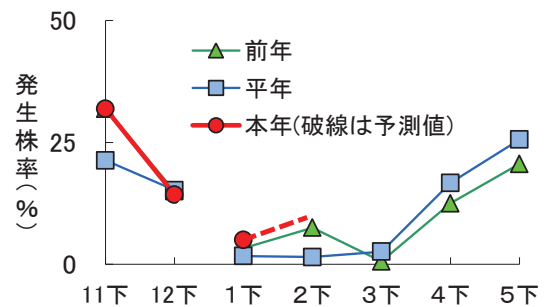


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：15.0%（平年3.2%、前年1.7%）

平年比：多（+）

前年比：多（+）

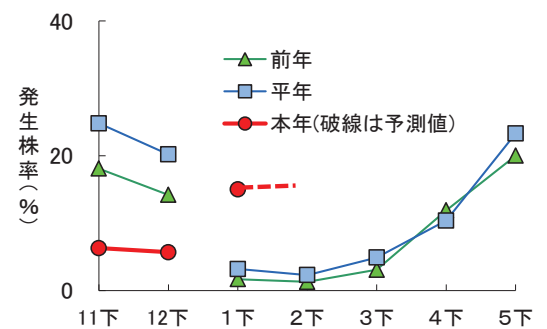


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：5.8%（平年1.7%、前年0%）

平年比：やや多〈±～+〉

前年比：多〈+〉

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生に注意し初発生時から計画的な防除を行う。

(2) 特記事項を参照。

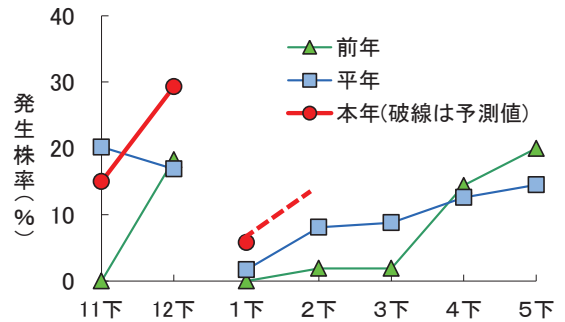


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.2%、前年5.8%）

平年比：やや少〈-～±〉

前年比：少〈-〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期の薬剤防除を徹底する。

(2) 黄化えそ病発生を認めた場合は、直ちに株を処分し本虫の防除を徹底する。

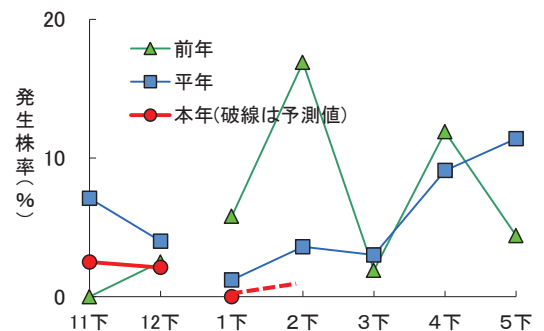


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：1.7%（平年0.3%、前年0%）

平年比：多〈+〉

前年比：多〈+〉

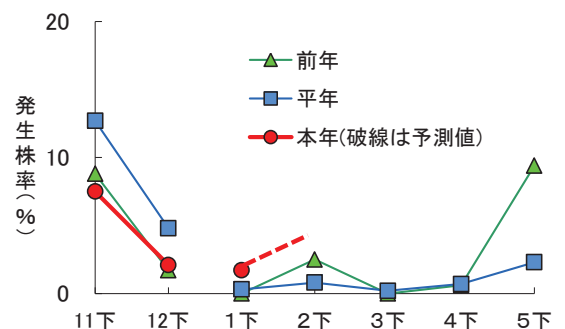


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期の薬剤防除を徹底する。
- (2) 退緑黄化病等の発生を認めた場合は、直ちに株を処分し本虫の防除を徹底する。

トマト

巡回調査（8圃場）
1月18～26日



巡回調査圃場の様子

1. 疫病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：1.3%（平年1.3%、前年0%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

② 病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は3.3%（±～+）

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項及び[注意報第7号](#)を参照。

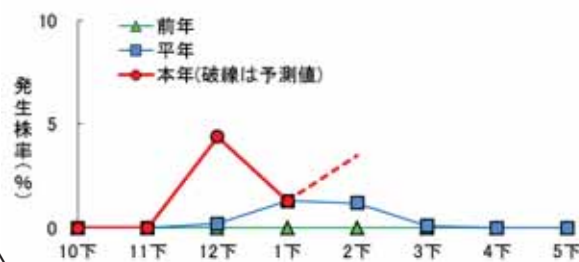


図1 トマト疫病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：3.1%（平年4.4%、前年11.9%）

平年比：並（±）

前年比：少（-）

② 病害虫防除員調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率は6.7%（±）

(2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

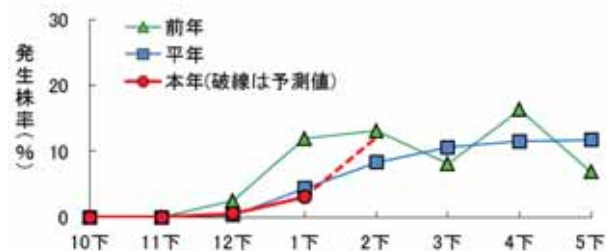


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：2.5%（平年1.8%、前年1.9%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

② 病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は0.8%（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項3を参照。

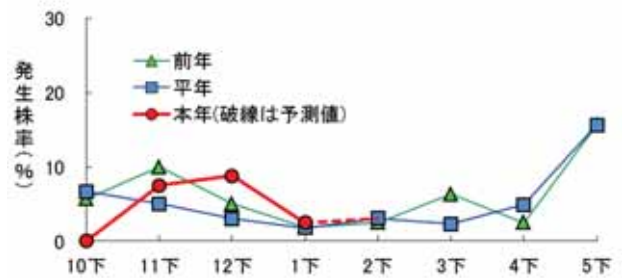


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

4. ハモグリバエ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

① 巡回調査

食害株率：1.9%（平年1.9%、前年0.6%）

平年比：並（±）

前年比：やや多（±～+）

② 病害虫防除員調査（6圃場）

食害株率：0%（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。
- (2) 本虫の発生を認めたら、初期防除を徹底する。

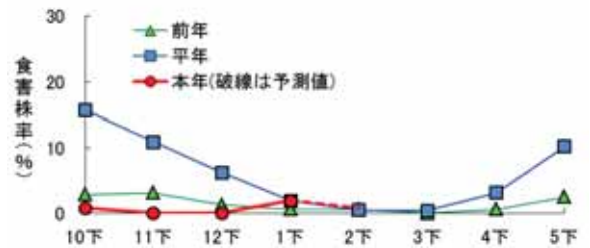


図1 ハモグリバエ類のトマトでの食害株率推移

タマネギ

巡回調査（16圃場）
1月18日



巡回調査圃場の様子

1. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生株率：19.9%（平年3.7%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 2月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

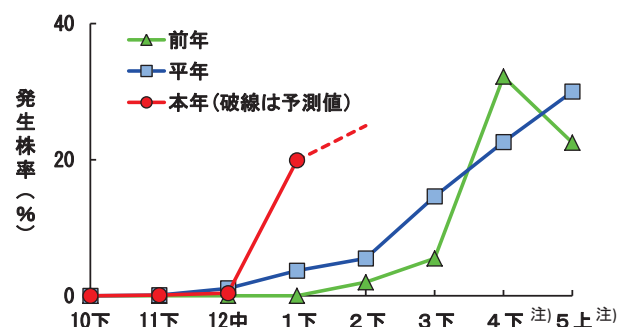


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 発生初期の防除を徹底する。
 (2) その他については特記事項参照。

2. ベと病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 巡回調査（図1参照）
 発生株率：0%（平年0%、前年0.01%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）
 ② 巡回調査圃場以外で発生を確認（±～+）
 (2) 2月の気象予報
 気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 特記事項を参照。

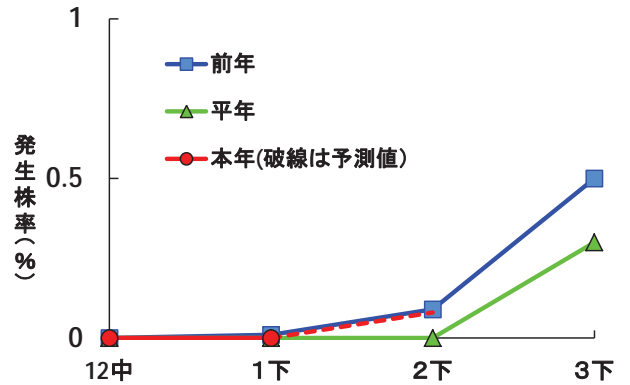


図1 タマネギベと病の発生推移

3. 白色疫病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 巡回調査（図1参照）
 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）
 ② 巡回調査圃場以外で発生を確認（±～+）
 (2) 2月の気象予報
 気温が高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 発生初期の防除を徹底する。
 (2) 通路を深く掘り高畦にするなど排水対策を徹底する。

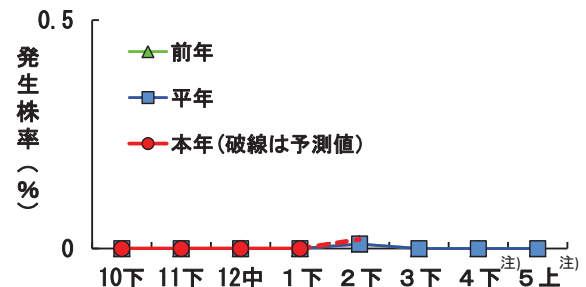


図1 タマネギ白色疫病の発生推移

注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に

4. ネギアザミウマ

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ① 巡回調査（図1参照）
 発生株率：0.1%（平年1.0%、前年0%）
 平年比：やや少（±～+）
 前年比：並（±）

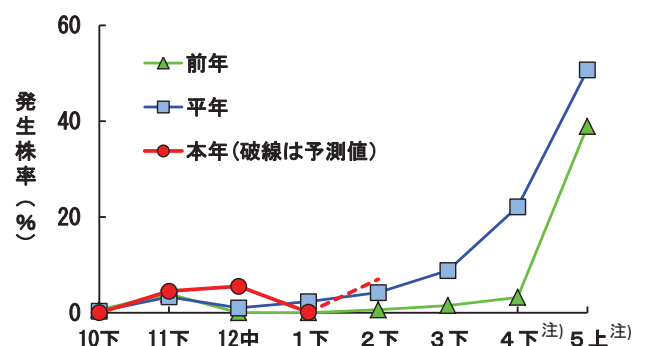


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

- (2) 2月の気象予報
気温がやや高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

キク

巡回調査（8圃場）
1月18～26日



1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より少ない）

2) 予報の根拠

- (1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0%（平年1.4%、前年0.3%）

平年比：やや少〈-～±〉

前年比：並〈±〉

- (2) 2月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件〈±～+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。
(2) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。
(3) その他については特記事項参照。

巡回調査圃場の様子

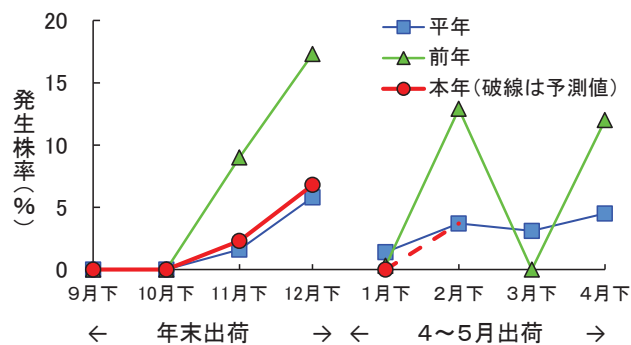


図1 キク白さび病の発生推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に12月19日～1月22日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
イチゴ	ハダニ類	1/14	福岡県	1/14	岐阜県
	灰色かび病			1/5	愛知県
トマト	疫病	12/22	佐賀県		
レタス	斑点細菌病			12/24	静岡県

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名	病害虫名	発表日及び発信元
野菜	トマト	トマト黄化病（ToCV） 1/20 神奈川県
	アブラナ科野菜	ケブカノメイガ 1/15 鹿児島県
	シソ	シソサビダニ 1/4 大分県
	メボウキ（バジル）	べと病（仮称） 1/4 大分県
	ホウレンソウ、シュンギク	オオクビキレガイ 1/8 岡山県
花き	キク	茎えそ病（GSNV） 1/14 岐阜県
果樹	ブルーベリー	ブルーベリータマバエ 1/8 群馬県
	イチジク	イチジク株枯病 12/24 秋田県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。

使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。

◎農薬が飛散して近くの別の作物にかからないように注意しましょう！

特に、少量多品目栽培の場合は、同じ農薬が使える品目の集約的な作付、適用作物がグループ化されている農薬の使用、収穫時期がずれるように作付時期を調整する等の飛散防止対策をしましょう！